

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300119		
法人名	特定非営利活動法人 優輪会		
事業所名	グループホームしおん		
所在地	静岡県駿東郡清水町徳倉1274-1		
自己評価作成日	平成24年11月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2271300119-00&PrefCd=22&VersionCd=](http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2271300119-00&PrefCd=22&VersionCd=)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年12月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れていて、利用者様個々のニーズを引き出し希望を叶えることができるよう常に努力しています。かかわりの中で大切なのはコミュニケーションだと考え、日々の会話からやりたいこと、いきたい所、好きなことなどを教えていただき、職員同士情報を共有するようにしています。日々の生活の場として家庭的な雰囲気の中で安心して安全な環境づくりをできるよう、どんなことでも気軽に声かけられる関係を心掛けています。「施設」「職員と利用者」という考え方ではなく、人と人の繋がりを強く意識し、お互いに無理のないよう、しおんでの生活においてこれからの生きがいや楽しみなどを見出してもらえればと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人「優輪(わ)会」は、運営理念として「優しい輪を通じて、地域に根ざした福祉サービス」を掲げ、しかもこの理念を一年の反省の下に、「毎年・個人の職員レベル」にまで目標の細分化をして利用者の為に活動している。ホームの名称「しおん」も、花言葉が「追憶・君を忘れない」であり、利用者や家族への温かい配慮が感じられる。ホームの運営も、近隣や地域・行政・同業福祉施設とも上手く連携し、利用者の個別ケアに力を入れて運営されている。ちょっとした思いやりや言葉かけの大切さを認識・実践し、その結果、利用者・家族との信頼関係の構築や馴染みの職員による安心の介護提供が実現している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し会議などでも伝え共有するようにしている。	アウトカム項目に記載した創業以来の理念を、職員の眼につくところに掲示し、一年の反省の下に毎年職員レベルの個人目標にまで細分化して活動している。	誇れる理念や個人別に細分化した目標活動等を、「おたより」や「個人宛レター」等に紹介し、更にホームの活動状況の理解が深まらないかの検討が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属させていただき町内の活動に参加している	自治会活動や回覧板・防災訓練・河川清掃・イキイキサロン・しおん祭り等々、地域・近隣住民のみならず、近隣介護施設やホームの活動への相互参加が活発で、日常的な交流が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣を対象とした施設行事を行い理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や関係者の意見をよく聴き施設運営に役立っている。	区長や役場・地域包括支援センター・家族等必要な関係者が出席し、2ヶ月に1回着実に実施され、有益なご意見をサービス向上に結び付けている。	昨年度までで8回の外部評価の受審と年6回の運営推進会議を生かした取り組みにより今回の外部評価の受審をスキップする権利を有するが、受審と会議の意義を感じた姿勢の継続が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町や包括主催の会議には率先して参加し意見交換をしている。	役場や直営型の地域包括支援センター・社会福祉協議会との日常の報(告)・連(絡)・相(談)が良く行われており、地域ケア会議や福祉施設地域懇談会等により、横の連携も築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げケアにおいても出来る限り拘束はしないよう取り組んでいる。	身体拘束0宣言を行い、社内研修でフィジカル(身体)・スピーチ(言葉)・ドラッグ(薬)の魔の3ロックを理解し、0に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町や包括から必要な時には制度について説明を受けれるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明と同意を必ず行い理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を提示している。来所時に気軽に声をかけていただけるような関係作りを目指している。	家族来訪時の対話・運営推進会議・しおん祭り・おたより等を通じて、家族とは良い関係が築かれており、率直なご意見を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い意見をくみ上げ反映できるようにしている。	日常の申し送り・カンファレンス・グループホーム会議の他、年2回職員との個人面談が行われており、意見や提案を受け止め、運営に反映させている。理念を噛み砕いた個人目標化も、この面談で具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標に向けての努力を考慮し個人面談などで話を聴けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行い介護力を高めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の事業所と合同でお花見に行ったりお祭りに参加したり交流の機会をもうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークにおいては傾聴を基本とし要望をくみやすいようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とは別に話を聴く機会をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向をふまえGH入所にこだわらず、最良の方法をすりあわすことが出来るような話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との関わりとして意識するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも気軽に来れるような環境にできるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を叶えることができるよう心掛けている。	本来介護予防用のイキイキサロンが、地域の理解でホームにも開放され、昔ながらの馴染みの人との交流に役立っている。また、遠方への墓参りの付添・部屋への使い慣れた品物の持ち込み等、人・場所・物との関係継続に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が率先し会話や関係の輪に入り広がりがあるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所や相談に気軽に応ずることができるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でよく話を聴くことから意向の把握が出来るようにしている。	かねてより、「なんでもノート」に職員の気づきを記録して利用者や家族のニーズを引き出してきたが、更に利用者に安心感と存在の意義をもたらせるよう聞き取ったことを物語に聞き書き仕上げる取り組みが始まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の会話や履歴を参考にし把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースを大切にし今の状態での最大限の自立支援が出来るよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な変化や変更点などノートを使い共有できるようにしている。	本人・家族から聞き取った情報や担当職員が作成したカンファレンスシートは職員全員が共有している。毎月3名のカンファレンス実施で3ヶ月に一度全利用者について確認し、現状に沿った介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式をベースとした記録を元にカンファレンスなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時変わるニーズに情報を共有することで対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し関わりを継続しながら心身の安定化を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や提携医と協力し適切に対応できるようにしている。往診や看護師などの体制も整えられている。	本人・家族の希望により、協力医や従来からのかかりつけ医、専門医に受診している。協力医は月2回往診がある。週1回看護師が訪問し職員と情報交換をして、細かな気づきを適切な医療受診に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的に健康管理や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や定期的な治療が必要な時はご家族や関係医療施設と協力し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望に添えるようグループホームでの対応ができる限りの体制をとる努力をしている。	入居の際にホームでの医療行為の制限を良く説明して理解してもらっている。本人・家族の負担も考慮して、出来る限り希望に添えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備し閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと防災訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加している。	年2回の防災訓練を実施しており、1回は消防署協力のもと、1回は業者による消火器類の取り扱い指導や避難経路と安全等確認している。近隣三施設と防災会議を開催し連携を図っている。	近隣施設の連携を強固にするためそれぞれの施設の防災訓練へ相互参加し、問題提起や支援策について話し合い、一層の安全を図りたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の関係性を大切にしその人との関係にあった言葉掛けや対応をしている。	利用者個々のニーズをくみ取って対応しているが、その場合でも言葉遣い等行き過ぎないよう節度を持って対応している。申し送り等は職員だけの場で行っており、書類の管理にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中にてご本人が自由に表現や決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが柔軟に個々への対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添えるよう、定期的に床屋に行ったり、化粧品を買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを考慮したメニューを設定したり、継続して食事が取れるよう形状や時間帯などを合わせた対応をしている。	現在、食事作りを楽しんで参加できる利用者は少ないが、コップやお椀拭き等を役割として参加する利用者もいる。日曜日の昼食は利用者の希望を献立に反映している。	日曜日だけでなく、職員の温かい心づくしの食事提供日をより多くすることが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェックし必要に応じ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実地している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をもとに出来る限り失禁のないような誘導をしている。	排せつチェック表を活用して声掛けや時間による誘導で出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考にし医師や看護師の指導をもとに対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により日時を随時変更している。	基本的に週3回の入浴を支援している。入浴時間や順番にこだわりを持つ利用者には配慮しており、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースにあわせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にて管理している、薬の内容を把握できるようにファイルを開覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の状態によりできることを生活での役割としてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力をえながら希望に添えるよう外出している。	毎日リハビリを兼ねてホーム内外で歩行訓練を実施しており、買い物や散歩等利用者の希望により出掛けている。デイサービス職員の協力もあり、夜間のイルミネーション見物や、日柄の良い日の買い物等利用者が喜ぶような外出支援がされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力により判断しご家族と検討のうえ施設管理や本人管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は随時やりとりできる環境にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快のないよう席や配置を考慮している。	毎月季節に合った作品を作り、廊下の壁面に飾っている。サンタクロースを飾った居間で落ち着く利用者、お気に入りの席で寛ぐ利用者等それぞれが居心地良い場所を持っている。エアコンフィルターは1週間に1度の掃除で衛生にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所をつくれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いていただけるようにし配置もご本人と相談の上おこなっている。	各居室は順番に大掃除してカビや埃に注意している。居室には仏壇や家族の写真・昔お気に入りだった服など、好きなものを身近に置いてご自分の生活空間を認識してもらえるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立度や本人の意向になるべく対応できるよう居室の配置など考慮している。		